

鴨祐為志幾島香之記

多
1338
2



門多
號 1338
卷 2

志哉島香記



志哉島香記
日教
本之枝
さあ
おろ
友
もの
えは

こゝ科紙とて人々をいふ事
冷泉合を名物とて後夜をいふ里のこゝ科紙
一宵もほろこす来りてはあはれはあは
るはこゝ科紙とて折句とてはあはれ
人のこゝ科紙とてはあはれはあはれ
何女房のこゝ科紙とてはあはれはあはれ
奉仕ぬこゝ科紙とてはあはれはあはれ
てはあはれとてはあはれはあはれ

もた人々の歌とてはあはれはあはれ
かき板寺にらとてはあはれはあはれ
早冷とてはあはれはあはれはあはれ
とてはあはれとてはあはれはあはれ
塔とてはあはれとてはあはれはあはれ
はあはれとてはあはれとてはあはれはあはれ
はあはれとてはあはれとてはあはれはあはれ
はあはれとてはあはれとてはあはれはあはれ

暁のめしりしれ 守るる年

四番

霜夜

曲子

けつやれおの月の左の千のきりまきま

ねさき

祐馬

心ちまへるるそのまきねさきおの老の形

ぬきまなるれと老後の懐き

なるのしあきと左の夜の月の左の千

つたさうとさうのめしりしれ

か一帖の歌もまきし間もに

まかきし

まかきし

まかきし

か一思ふとまきしねえ四人勝ぬ

あきかきぬとまきし

けつやれおの月の左の千

そやあやなるこゝと一人の勝せをせよ
まごもはくふとて四類を減き一と山年の
るとの二花のそを三明の四明の
五ウ也よウとましめはんら
口折とて吾行りるあま
らうやまらぬいつとまごぬ

霜夜 峯の花の 明のウ 花の雪
秀豊 峯の花の 明の 霜夜 花の雪

夫連 霜夜 ウ 花の雪 明の
祐局 霜夜 ウ 明の 峯の花の 花の雪
祐思 花の雪 明の 花の雪
教春 明の 霜夜 ウ 花の雪
原満 霜夜 花の雪 峯の花の 明の
豊子 霜夜 峯の花の 明の 花の雪
前子 花の雪 明の 霜夜 ウ
祐ら 花の雪 明の 霜夜 ウ

豊子のいづれもいふにぬいづるにぬえた
たき江流をささむ人へのいづれも
ハ程残り又いれをいれをさす程も
人をも無つきたる半をさす程もあれ
このいよせんもいづれもいれをいれ
一時もいれをいれをいれをいれ
捨つていれをいれをいれをいれ

うらね

夫連

花の春のいづれもいれをいれをいれ

あつた

秀豊

足利のいづれもいれをいれをいれ

花のいれ

豊子

春のいれをいれをいれをいれ

酒雙

教孝

いれをいれをいれをいれをいれ

夕ふれ

祐暎

